

アンダンテ便り

2023年12月号 作成：栄養課・相談課・事務課



運動会

11/22 (水) アンダンテ伊集院で
大運動会が開催されました！！
利用者の皆様、それぞれのチームに
負けない様に一生懸命競技に参加さ
れていらっしゃいました。
利用者様・職員、たくさんの笑顔が
みられた一日となりました。



URL <http://kenseikai.biz>

アンダンテ伊集院 広報・環境委員会



新人紹介

11月から入職して分からないことばかりですが、宜しくお願いします。
「人との繋がり」を大切に頑張っていきます。



10月10日から勤務させて頂いています。
介護施設での仕事は初めてですが、頑張っていきたいと思います。
宜しくお願いします。



お知らせ

散髪代について

散髪業者様より、価格高騰に伴い2023年12月より価格変更のお知らせがありました。

【旧】1,800円（税込）



【新】2,200円（税込）

皆様のご理解の程よろしくお願いたします。

面会について

年末年始の12/30（土）～1/3（水）の間は、週が違いますが、面会は1回とさせていただきます。
できるだけ多くのご家族に面会をしていただきたいと思っております。
皆様のご理解とご協力に感謝いたします。

クリスマス会

12/27（水）にクリスマス会を予定しています。
アンダンテには サンタとトナカイが、ゆっくりやって来るようです。今年はクリスマスを長ーく楽しめそうです。

～掲載されました～

事務長（丸山 幹生）を主体としたアンダンテ伊集院での取り組みとして、電子カルテ導入の経緯や成果など紹介されております。ぜひ、ご覧ください。

老健（全国老人保健施設協会機関誌）2023年11月号より

【連載】

老健仕事人 事務職

電子カルテの導入がもたらす 業務効率化と未来への期待 生産性を向上させるICTのチカラ

丸山 幹生 （まるやま かんせい）

介護老人保健施設アンダンテ伊集院（鹿児島県）
事務長



はじめに

アンダンテ伊集院では、電子カルテを導入して7年が経過し、職員の大半が入力に慣れ、現在はなんの支障もなく業務を行っています。公益社団法人鹿児島県老人保健施設協会の事務部会において、「記録の電子化」については会員施設のなかでも考え方や運用状況がさまざまであり、中々着手できていない施設が多いことがわかりました。今後、さらにICT導入は加速していくことが確実であり、取り残されないためにも導入の手順等を学んで記録の電子化に取り組み、すでに定着している施設にはメリットとデメリットを伝える機会を設けたいとのことで、私に講話の依頼がありました。

この講話の後に、記録の電子化に興味をもった施設が増えたと鹿児島県老人保健施設協会から報告をいただき、また講話内容をもとに今号の「老健仕事人」の執筆を依頼されましたので、導入前から現在に至る経緯を振り返ってみたいと思います。

施設紹介

当施設は鹿児島県薩摩半島のほぼ中央に位置する日置市にあり、医療法人健誠会を設置主体として1998年1月に開設し、今年で25年になる独立型の施設です。

2019年6月から超強化型を維持し、「利用者・職員・施設それぞれに何が最善かを考えて行動する」を行動指針に掲げ日々、取り組んでいます。

振り返り

開設当初は紙カルテを用いて業務を行っていましたが、カルテの管理場所が2階にあり、1階と地下1階で業務を行う部門の職員は2階に行かなければ情

報が得られない状況でした。また、カルテを他者が使用して見られない、赤字の解説、本来頼られている所に情報が綴られていない等で確認に時間を要していたこともあり、7年前の2016年4月より電子カルテを導入することとなり、導入前～導入後にかけて下記の取り決めを行いました。

- ① 施設の主担当者を決め、システムの全容を把握する。
- ② 紙カルテでの問題点が電子カルテで改善されること、電子カルテの機能をj用いて業務の効率化が図られ負担軽減につながることを職員に説明する。
- ③ 電子カルテはメリットだけでなく、パソコン操作に不慣れな職員は慣れることに時間がかかる等のデメリットもあることを職員に説明する。
- ④ 各部門のシステム担当者を任命する。
- ⑤ 操作に慣れるまでの約半年間は、施設の主担当者が各部門に毎日顔を出して操作説明を行い、一方で現場の生の声をメーカーに伝え、改善をお願いする。

これらの対応が功を奏し、職員の理解と協力を得られ大きな問題もなく電子カルテを導入できました。

導入できたもう1つの要因として、施設管理者の理解を得られたことです。導入前のパソコン台数は20台でしたが、その後は必要に応じて増設を行い、現在は36台となっています。それ以外にも、スマートフォンで業務が行えるソフトも導入したことで、さらに業務の効率化が図れました。

導入して8か月後、職員に電子カルテを導入してどう感じているかのアンケートを実施しました。回答として「記録内容が見やすく、いつでもどこでも確認ができ、情報収集がしやすくなった」「見たい情報がすぐに探し出せる」「紙カルテのように場所をとらず、記録時間も短く効率が良くなった」などの意見があり、約8割の



施設外観

職員から電子カルテを導入して良かったとの結果を得られました。

以上のように、一定の成果が得られたため、鹿児島県老人保健施設大会で電子カルテを導入して業務効率化が図れたことを発表したところ、2018年7月1日発行の『ろうけん鹿児島』に取り上げていただく運びとなりました。

その内容を見た多くの施設から、詳しく話を聞きたいと見学の依頼を受けるようになりました。それぞれの施設で導入方法や職員の年齢層などに違いはありますが、抱えている問題はほとんど同じで、現状をどうにか改善したいという思いに少しでも役に立つならと、施設をあげて対応しました。見学を受けたことで、職員も導入前の大変さを思い出し、効率よく業務を行えている環境を再認識できる機会にもなりました。

導入の有益性

導入して改善されたのは以下のようなことです。

看護職員が毎日の検温をラウンドしながら随所に戻ることなく、その場で入力できるようになったことで、転記ミスを防ぐことができるようになりました。またコロナ禍において、当施設でも新型コロナウイルスに感染した利用者が発生しましたが、その対応でも汚染区域専用のパソコンを配置することで、汚染区域から出ることなく入力を行えるので、感染者のバイタル等を迅速に把握することができ、職員の情報共有が容易になりました。

介護保険証や介護給付費明細書等を電子保管し、電子カルテから見られるようにしたことでペーパーレス化につながり、倉庫の空きスペースを確保できるようになりました。運営指導の対応においても、紙カルテ時代にはたくさんの書類と紙カルテを机の上に



ラウンド中に電子カルテを操作する職員

広げて確認してもらっていましたが、パソコン内の電子カルテに必要な情報が入っているため、職員が操作し要求のあった情報を迅速に確認できる方式に変えたことで負担が軽減しました。

令和3年度の介護報酬改定にて、LIFE算定が始まりましたが、障害マネジメント加算と併せつ支援加算、自立支援促進加算の要件にある、利用開始時または施設入所時における評価の情報が電子カルテに保存されていたため、過去の記録の確認に時間がかからず評価をスムーズに行えました。また、職員がパソコン入力に慣れていたことで、混乱もなく算定を開始することができました。

さらに、当施設は土砂災害警戒区域に指定されていますが、サーバーは別の場所にあるため、万が一、土砂災害に見舞われたとしても利用者の情報は守られ、BCPの情報管理に対応しています。

まとめ

当施設で大きな問題もなく電子カルテを導入できたのは、職員と施設管理者の理解があったおかげです。見学に来られた施設の方々が口々に、職員の理解を得られるから心配していましたが、新しい取り組みを始めるときには誰しもネガティブな印象をもちます。そのネガティブな印象を払拭できるだけのメリットがあることを職員に伝えて、導入を成功させる施設が1つでも増えることを期待しています。

最後に、全国的に人手不足の施設が多くあると思いますが、それを補う上でICTの導入は今後さらに欠かせないものになると思います。当施設でも直面している人手不足を補えるように現状の電子カルテをさらにバージョンアップし、業務の負担軽減につなげていきたいと思っています。